

第六編 行政

第一章 行政の変遷のあらまし……………一

第一節 行政区画・行政機関……………一

国郡設置／広島藩／常呂郡内の村設置／戸長役場の設置／総代理人制／常呂郡内の戸長役場設置／三原一局時代／常呂外六力村戸長役場／野付牛外一力村戸長役場の設置／常呂外四力村戸長役場／網走支庁の設置／市制・町村制の公布／北海道区制・市制・町村制／一級町村制と二級町村制

第二節 市町村のうつりかわり……………六

北海道二級町村制と屯田兵村／野付牛村二級町村／野付牛村一級町村／常呂村・鐮沸村二級町村／端野村・相内村の分村／北見市と相内村の合併

第三節 市制、町村制の改正……………八

市制、町村制下の變遷

第二章 常呂……………二

第一節 歴代首長……………二

第二節 歴代議員……………二

二級町村制時代／地方自治制度制定後

第三節 名誉町民……………五

新谷廣治／上杉武雄

第四節 庁舎の変遷……………五

戸長役場設置後の常呂／村役場庁舎建設／町役場庁舎建設

第三章 野付牛・北見……………六

第一節 歴代首長……………六

第二節 歴代議員……………七

二級町村制時代／一級町村制施行／市制施行／地方自治制度

制定後

第三節 名誉市民……………二

伊谷半次郎／永井勝次郎／吉田定次郎／寺前武雄／金一

第四節 庁舎の変遷……………三

戸長役場／役場庁舎建設／市制後の庁舎／新庁舎建設

第四章 武華・留辺蘂……………三

第一節 歴代首長……………三

第二節 歴代議員……………三

二級町村制時代／一級町村制施行／地方自治制度制定後

第三節 名誉町民……………六

佐野準一郎／関量一／坂本悟朗

第四節 庁舎の変遷……………七

村役場の建設／役場庁舎の改築／役場庁舎の建設

第五章 端野……………八

第一節 歴代首長……………八

第二節 歴代議員……………八

二級町村制時代／一級町村制施行／村会の独立／地方自治制度制定後

第三節 名誉町民……………二

加藤弥四郎／茂手木一郎／天谷平信／中澤廣

第四節 庁舎の変遷……………三

役場の開設／役場庁舎建設／戦後の役場庁舎の建設／新庁舎建設に向けて

第六章 相内……………三

第一節 歴代首長……………三

第二節 歴代議員……………三

野付牛村議会議員／一級村制時代／野付牛町から分村後村会議員／二級村制時代／地方自治制度制定後

第三節 庁舎の変遷……………三五

役場開設／新庁舎建設

第七章 道議会議員……………三六

北海道会／北海道議会

第七編 産業

第一章 農業……………三九

第一節 移住と開墾……………三九

一 常呂地区団体入植……………三九

大分団体／高知団体の入植／岐阜団体の移住

二 北光社の入植……………四二

農場の開設計画／農場を八班に編成／設立総会で規約等を議決／入植に向けた準備／移住民の募集／移住民応募の背景は／移民団の準備／徒歩で北光社本部へ／生活を守るための出稼ぎ／暗闇の大自然の中で／副産物の栽培／北光社一八年間の幕を閉じる／屯田歩兵第四大隊／応募兵の入地経路／開拓と教訓／軍事教訓／現役解除

三 米作りの始まり……………五四

米の試作／稲作の伸長

四 薄荷導入……………五五

五 農牧場成立と開放……………五五

第二節 産業基盤として……………五七

一 耕地拡大……………五七

農業移民の流入／灌漑溝と土工組合

二 薄荷栽培……………五九

自給食料から換金作物への転換

三 小作農場の状況……………六〇

農場主／団結移民

四 第一次世界大戦……………六一

豆類とイモ類の作付け拡大

五 冷害と水害……………六四

明治時代の冷害と水害／大正時代の災害と冷害

六 農業試験場（寒冷地適応作物）……………六六

北海道立北見農業試験場の沿革／寒冷地適応作物に向けた試験業務

七 産業組合の成立と大正末期……………六七

産業組合成立の背景／野付牛村産業組合／上常呂産業組合／端野産業組合／武華（留辺蘂）産業組合

八 薄荷、亜麻く耕作面積、収穫量の変遷……………六九

亜麻栽培の歴史／電光石火の野付牛薄荷工場の建設

九 戦時統制……………七一

アルコール工場建設

第三節 酪農振興……………七一

酪農振興……………七一

一 単作収奪型農業からの転換（酪農導入、ビート栽培）……………七一

酪農導入／ビート栽培

二 先駆者たち（相原など）昭和初期……………七三

先駆者たち（相原など）昭和初期……………七三

第四節 冷害との闘い、農業試験場……………七三

一 冷害及び水害（昭和初期から戦中）……………七三

昭和六年の冷害／昭和七年の冷害と雨害／昭和九年の冷害／昭和十年の冷害／その他の災害と冷害

二 産業組合の動向……………七七

野付牛村産業組合／相内産業組合／上常呂産業組合／端野産業組合／武華（留辺蘂）産業組合／常呂産業組合

二 薄荷栽培……………五九

三 農業試験場の研究経過……………八〇

試験研究の経過と成果／豆類／馬鈴薯／甜菜

第五節 戦後の発展……………八四

一 農地改革……………八四

戦後開拓

二 供出増産対策……………八六

三 農協組織の動向……………八六

端野町農業協同組合／温根湯農業協同組合／相内農業協同組合／常呂町農業協同組合／上常呂農業協同組合／北見市農業協同組合／留辺蘂農業協同組合

四 農業共済の組織化……………一〇一

農業災害補償法の変遷／農業共済設立／端野村農業共済組合／常呂農業共済組合／相内農業共済組合／北見地区農業共済組合／留辺蘂農業共済組合／第一次広域合併と北見地区農業共済組合の誕生／北見地区農業共済組合事務所、家畜診療所の落成／第二次広域合併とオホーツク農業共済組合の誕生

五 高度経済成長期の農業……………一〇四

高度成長の背景／農家経済にひずみ／「農業基本法」の制定／機械化の進展／急速に進んだ離農／米の生産調整

第六節 産地形成の取り組み……………一〇七

一 産地形成の取り組み……………一〇七

玉葱／甜菜／小麦

二 酪農・畜産の動向／平成期……………一一一

北海道内の酪農・畜産情勢／飼養形態と酪農担い手の育成・確保／酪農の地域営農支援システムの形成／北見市における酪農・畜産の状況／酪農ヘルパー事業の導入／北見市の公共牧場／乳牛の改良促進と意欲向上／家畜伝染病の発生予防及びびまん延防止

三 集出荷・加工施設の動向（北糖など）……………一一三

きたみらい農業協同組合／常呂町農業協同組合／北海道糖業

北見製糖所／株式会社グリーンズ北見

第七節 新たな時代へ……………一一七

一 平成期の地域農業……………一一七

これからの農業・農村の現状と課題／北見市の農業概要／建設業などの農業生産法人への参入／農業者による農事法人組合の立ち上げ／新規就農者不足による高齢化と離農／地域資源を活かした農村の振興・活性化／一次産品のブランド化／農商工連携と六次産業化／海外に目を向けた販路開拓／地域の資源保全ネットワーク

二 農協組織の再編（広域合併の背景、経緯）……………一二二

きたみらい農業協同組合誕生の背景と経緯／常呂ブロック農協合併検討委員会への移行／「常呂ブロック農協合併推進委員会」の設立／「常呂ブロック八J A合併予備契約」調印式

三 再編後の地域農業……………一二五

きたみらい農業協同組合／常呂町農業協同組合

四 資源立地型加工・製造業の推移……………一二五

日本製菓工業株式会社の誘致／地域循環型&地産地消／地域資源活用事業の認定を受けた企業

五 食品加工技術センター……………一二六

第八節 主要農作物……………一二七

水稲／玉葱／甜菜／馬鈴薯／麦類／豆類／野菜・その他／畜産

第二章 林業・林産業……………一四五

第一節 森林整備の変遷……………一四五

北見市の森林・林業の概要／戦前までの森林整備等の状況／戦後の森林の荒廃と復旧／木材増産の要請と拡大造林／林業の低迷と国民の要請の多様化／地球温暖化への対応と新たな動き

第二節 天然林伐採	一五〇
一 開拓期の森林資源	一五〇
マッチ軸木工業	一五〇
二 各地域の林業の推移	一五四
常呂林業の推移／端野の森林と林業の変遷／野付牛の林産業の推移／相内の林産業の推移／留辺蘂における造材事業／留辺蘂の林産業の推移／木材価格の上昇と伐採量の推移	一五四
第三節 国有林・民有林	一五八
一 拡大する森林需要	一五八
官行斫伐（伐木）事業／端野の森林と林業の変遷大正時代／端野の昭和戦前期／留辺蘂の林木伐採量／留辺蘂林産物の需要構造／留辺蘂伐木の労働過程と技術の展開	一五八
二 開拓の進展と資源（森林面積の減少、動力系林鉄）	一六一
森林鉄道ポールドウインの活躍／林業の機械化と林業技術の発展／昭和三十八年五月二十日森林鉄道に幕	一六一
三 国有林と道有林（営林局などの動向）	一六七
国有林の変遷／北見営林局／北見営林署／留辺蘂営林署／網走営林区署／佐呂間営林署端野森林事務所／道有林の変遷	一六七
第四節 林業振興と資源保護	一七〇
一 戦後復興と資源回復の動き	一七〇
（森林法改正、地域森林計画と林業現場の動向）	一七〇
戦後混乱期の林業情勢／木材統制の撤廃とその影響／オホーツクの森の整備／常呂川流域中核林業振興地域整備計画／臨森林型産業都市構想／森林流域管理システム／流域森林総合整備事業／端野町林業振興地域整備計画／端野の森林・林業／端野町振興事業／多彩な新興事業の導入／端野「森と木の里」の整備／常呂の林業の展開	一七〇
二 台風一五号（洞爺丸台風）による森林被害と風倒木処理	一七五
森林被害と風倒木処理／風倒木処理	一七五
三 構造不況（外材輸入、工場閉鎖、地域コミュニティの崩壊）業者連携、団体・機関、カラマツセンター、林産指導所	一七七
留辺蘂林産協同組合／留辺蘂木工業協同組合／北海道経木協同組合／北海道経木単板協同組合／留辺蘂町立「物産館」の設立／協同組合北見地方カラマツセンターの設立	一七七
四 新森林型産業都市構想	一七九
（木のフェスティバル、オホーツク木のプラザ）	一七九
木のフェスティバル／オホーツク木のプラザ	一七九
五 森林組合の変遷（民有林の動向）	一八九
北見市森林組合／留辺蘂町森林組合／端野町森林組合／常呂町森林組合／北見広域森林組合	一八九
六 森林認証	一九二
七 林業の生産と労働の近代的変容	一九二
素材運搬の推移／林業従業者たち／営林局と事業管理	一九二
第三章 水産業	二〇七
第一節 明治以前の水産業	二〇七
商場知行制から場所請負制へ／宗谷場所および斜里場所の開設／宗谷場所の範囲と常呂郡の所属／常呂番屋の設置／当地方における藤野家の漁業状況	二〇七
第二節 明治時代の水産業	二二四
第三節 明治時代の漁業制度と漁業組合	二二二
漁業制度（資源保護と取締）／新たな漁業組合の設立／漁業の転換	二二二
第四節 大正時代の水産業	二二八
大正初期の常呂村の漁業／大正時代の漁業／牡蠣漁業を中心として／明治末から大正にかけての北見国沿岸の海扇漁業／大正期の鰯漁業組合／大正末期から昭和初期の水産業家経済状況	二二八

第五節 昭和初期の水産業 …………… 二三四

サロマ湖の湖口の開削と湖内漁業／新湖口の開削／サロマ湖のホタテ／魚価の低落とシエール（鯨状価格差）の拡大／漁家経済の窮乏と経済更生運動／戦前の水産業／水産統計について／漁業組合と水産会／無限責任常呂漁業協同組合の設立／常呂漁業会への統一／常呂河口漁港の修築

第六節 戦後の水産業 …………… 二五一

一 漁業制度の変革 …………… 二五一
新漁業法の制定／常呂漁業協同組合の設立／サロマ湖養殖漁業協同組合の設立

二 戦後約三十年の増養殖漁業と水産加工 …………… 二五三

戦後の漁業政策と常呂の状況／戦後のカキ養殖漁業／養殖と増殖／ホタテ増養殖漁業／さけます増殖事業／ノリ養殖事業

三 常呂川の水質汚濁 …………… 二五九

四 水産加工 …………… 二六〇

北海道の水産加工／常呂の水産加工／ホタテの水産加工

五 漁業経営の推移 …………… 二六二

漁業人口等の推移／漁船の推移／資源管理型漁業の推移／漁獲高の推移

第七節 ホタテ漁業の歩み …………… 二六五

明治期のホタテ漁業／大正期のホタテ漁業／戦前のホタテ漁業／戦後のホタテ漁業／操業隻数の削減／ホタテ増養殖五年計画の樹立／共同経営方式の導入／ホタテ貝毒の発生／ホタテガイ加工時等に発生する廃棄物の処理／ホタテエキス精製工場の設置／ホタテの漁獲高

第八節 サケ定置網漁業の歩み …………… 二七三

明治期のサケ漁業／戦後のサケ定置網漁業／少数の既存漁業者から多くの漁業者へ

第九節 各漁港の経過と現状 …………… 二七七

一 常呂河口漁港（第一種漁港） …………… 二七七

（昭和二十六年六月二十九日指定）

二 常呂漁港（第二種漁港） …………… 二七九

（昭和二十七年十月六日指定）

衛生管理型漁港に向けた整備

三 栄浦漁港（第一種漁港） …………… 二八一

（昭和三十六年八月二十五日指定）

四 サロマ湖漁港（第一湖口地区・第二湖口地区） …………… 二八二

（昭和六十三年三月三十一日指定）

第四章 商業 …………… 二八六

第一節 開拓期の商業 …………… 二八六

一 戸長役場時代の常呂 …………… 二八六
海岸往来の要衝／初期集落形成の胎動／「殖民状況報文」の世界／商い事始め／創始者柴田直次郎／来住商人の動静／物流通の隘路／浜市街から新市街地へ／陸の孤島と仕入取引の依存／周辺地域の状況

二 「北見」商業の夜明け …………… 二九三

兵村商業の前身／駅通の時代／兵村建設の槌音／二号駅通周辺の変貌／小市街地の誕生／オンネメーム界隈の賑わい／相内兵村の状況／北光社移民団先発隊の入り／商業者第一号志村金作／野付牛兵村時代の商業／「酒保」商い事始め／市街地の移動／実業家嶺次吉郎／番外地市街地の形成／先乗り商人たち／商業活動の実態／兵村経済の状況／隘路多い商品流通／陸の孤島の最深部／現役解除後の状況／ム力原野の動向／明治四十年代の常呂商業／地域産業の状況／商人たちの動向

第二節 新開地商業の展開（明治末期～大正、昭和初期） …………… 三〇八

一 市街地商業形成の軌跡 …………… 三〇八

疾風怒濤期の野付牛／番外地市街地の動向／丸玉商業部の賑わい／新市街地の形成／根室銀行の進出／「丸い」創業

者伊藤元治／名塩良造の商人道／拡充期迎える市街地／四通八達機能の整備／中心市街地商業の興隆／消費購買層の拡大／同業者結束の動き／一力無尽会社の設立／野付牛実業協会の設立／大戦景気の終焉／上常呂市街の形成／大正期の常呂商業／常呂村の躍進期／商業組合の設立／海路頼みの流通／進む社会基盤の整備／前近代的な商慣習／上杉商店の躍進／大正期の端野商業／駅前商店街の形成／地域商業の実際／「字区」の状況／緋牛内駅通の終焉／相内兵村の動向／色濃 い兵村気風／物資流通の後進性／有力商業者の出現	三二七
二 ム力原野の変貌	三二七
開駅前後の市街地／伊藤商店の創業／分村、武華村へ／駅前市街地の状況／名塩良造の足跡／温根湯市街地の形成	三三〇
第三節 まち筋から商店街へ	三三〇
一 駅前商店街の形成	三三〇
野付牛町の新興商人群／産業形成の特異性／野付牛市街地の動静／駅前ビルディング百貨店／山寺捨造と会陽館／実業協会から商工会へ／新旧市街地の融合／商機手繰る商人たち／商人伊谷半次郎の時代／野付牛商工会から商工会議所へ／統制経済への道／丸三鶴屋の動向／しのびよる影	三三九
二 昭和前期の地域商業	三三九
逆風下の常呂商業／相次ぐ冷水害／商業地域の拡大／名望、有力商人の動向／商業者組織の変遷／苦渋の配給時代へ／冷水凶作下の端野商業／一級町村制時代へ／相次ぐ冷水・凶作／逆風下の商業界／端野村商業組合の時代／戦前の留辺薬市街地／市街地商店街の動向／繁華街機能の整備／金融機関誘致に奔走する有力者たち／実業協会と商工会／不況下、戦時体制へ／武華市街地の動向／純農村相内の商業活動／分村後の状況／地域存亡の危機	三三九
第四節 商店街の時代	三五〇
一 戦後の商店街再生の軌跡	三五〇
北見中心街の動向／「ヤミ市」の時代／有力商店の状況／商工会議所の再建／北見専門店会の動向／繁華街形成の経緯／三町村の商業再建の動向／常呂商業協同組合の再編／常呂商工会の設立／配給統制組合の解散／端野市街と豊稔座／任意商工会の設立／物資不足下の混乱期／商工団体設立への動き／留辺薬商工会議所設立／留辺薬商店会連合会設立／温根湯市街地の動向／温根湯市街の大火／戦後の相内商業／留辺薬商工会議所相内支部	三五六
二 高度経済成長期の商店街	三五六
北見中心商店街形成と近代化／拡張する商業街区／金融機関の動向／百貨店時代の光と影／スーパー時代の幕開け／市商連の結成／郊外型事業団地造成の動き／卸売業界の軌跡／車社会とドーナツ化現象／北見専門店会の躍進／安定成長時代へ移行／大型店の出店攻勢	三七五
三 地域商店街の生成発展	三七五
市街地商店街の移動／常呂町商工会の発足／過疎化現象の進行／昭和五十年代の商業事情／商業街区の変化／商工振興会の時代／端野町商工会の発足／北見市商圏の光と影／高度経済成長の終焉／留辺薬商店街の状況／進む世代交代／再度の商業診断／温根湯商店街の動向／商店街診断勧告	三八八
第五節 北見市商圏形成とその変容	三八八
一 大型店時代の時間的経緯	三八八
北見中心商店街の変遷／「東急」計画の経緯／「黒船襲来」前後の動向／大型店時代の幕開け／郊外型専門店の参入／一次、二次商圏の動向	三九二
二 平成期の北見市商圏の概観	三九二
さらなる分極化／北見サティの開業／コンビニ時代の幕開け／東急デパート閉店へ／新北見市時代の商圈事情	三九二

第五章 工業 …………… 三九七

第一節 初期工業の成立過程 …………… 三九七

一 製軸工業とそのパイオニア群像 …………… 三九七

製造業の萌芽期／地域開拓の特質／山田製軸工場の誕生／先
 駆者たちの動向／資源枯渇の背景／常呂川中流域の動静／起
 源は明治三十一年／丸玉王国の時代／鈴木浩気の来歴／製軸
 工業事始め／雌伏期の「丸玉」／「蒸気」工場稼働へ／合板
 事業の発端／大戦景気と「丸玉王国」／丸玉鈴木商工の設立
 ／丸玉王国の解体／王国の後継者たち／常呂川流域の軸業工
 業の消長／公益社端野工場／大東燐寸仁頃、相内分工場／新
 井三之助の事績／無加川地域の動向

二 草創期の林産工業 …………… 四二二

木材加工工業の成立／「丸玉」製材部の設立／木挽き職人の
 時代／木材加工業の創業者たち／梨田全吾の来歴／工場買収
 武華村へ／三井財閥の製材業参入／野付牛木挽工場の稼働／
 留辺薬工場の推移／経木製造業の台頭／常呂、端野地域の状
 況／「丸玉」後の製材工業

第二節 資源立地型産業の勃興 …………… 四二〇

一 安定生産態勢に入る農業 …………… 四二〇

澱粉加工業の台頭／「骨格」形成の特殊性／「水車精穀」時
 代の状況／動力精米工場の出現／澱粉加工業の台頭／川畑農
 場澱粉工場／相次ぐ大手の生産拠点形成／脚光浴びる資源優
 位性／帝国製麻野付牛製線工場／留辺薬亜麻工場／森永煉乳
 野付牛工場の設立経緯／大正十四年一月操業開始／製品製造
 規模を縮小／ビート工場誘致の顛末／工都・野付牛構想／日
 清製粉野付牛工場／北連野付牛薄荷工場／在来型薄荷釜の時
 代／田中式薄荷蒸留釜／薄荷工場建設の経緯／「北連プラン
 ド」世界市場を席巻

第三節 ものづくり産業の勃興 …………… 四三一

一 民生型軽工業の振興 …………… 四三一

職人たちの時代／昭和初期の動向／常呂村の職業別戸数／端
 野村の精米業／北海道経木工業組合／野付牛町の動向／建設
 業界の先達たち／「北の天」の時代／醸造業界の先駆けたち
 ／酒造業者の系譜／馬場酒造店の開業／馬場昌久の来歴

二 戦時下の経済統制 …………… 四三九

軍需優先へ舵切る／馬場酒造店の廃業／統制経済の時代／ア
 ルコール工場の顛末／松下航空木材会社／まちの発明家たち
 ／藤木松右衛門／似内哲郎

第四節 復興と新たな展開 …………… 四四四

一 敗戦直後の状況 …………… 四四四

物資不足下の胎動／軍需から民需への転換／農産加工業と木
 材業の動向／旧北見市の製材業界／引揚者救済とコンロ工場
 ／特需と混乱期の終焉／再生への道のり／北興化学工業の創
 業／諸工業の勃興／建設業界の軌跡／業界組織の変遷／統制
 時代の建設業界／敗戦と組織再編

二 高度経済成長の時代 …………… 四五二

新たな成長への胎動／芝浦製糖工場の誘致／北見パルプ工場
 操業へ／昭和三十年代の工都北見／木工団地の建設／高度経
 済成長の軌跡／市町村要覧の推移／常呂町の状況／農業地帯
 端野町の動向／留辺薬の林産工業／カラマツセンター操業態
 勢入り／高度経済成長の光と影／変わりつつある潮目／北見
 工業団地の設置／北見建設業協会の発足／ものづくり商業振
 興の取り組み／技能者育成の歩み／北見地域職業訓練セン
 ター／技能振興都市宣言／北見市工業技術センター／グリー
 ンス北見

三 バブルから平成へ …………… 四六四

バブル崩壊後の軌跡／流域工業の体格／合併時の工業概況

第六章 鉱業 …………… 四六七

第一節 北海道鉱業の沿革 …………… 四六七

一 北海道の鉱業 …………… 四六七

明治以前／明治、大正時代／太平洋戦争まで／太平洋戦中・戦後

二 管内の鉱業 …………… 四六八

三 北見地方の鉱業 …………… 四六八

常呂の鉱山開発／国力鉱山の隆盛／国力鉱業所の閉山／閉山と地域社会／鉄・満俺鉱（日吉鉱区）／福山鉱区／端野の鉱山開発／端野鉱山／忠志マンガン山／二区鉄鉱床／忠志炭山／三陽石灰／砂利採取と岩石砕石利用／留辺蘂の鉱業の推移／野村鉱業株式会社イトム力鉱業所／イトム力鉱業所の変遷／北見の鉱業／石灰石／上常呂鉱床 位置および交通／地質及び鉱床／北見石灰工業株式会社／珪藻土／北海魔法カマド／相内の地下資源／開成の地下資源／若松の地下資源

第二節 留辺蘂軟石 …………… 四八〇

一 留辺蘂軟石の調査 …………… 四八〇

軟石とは

二 留辺蘂軟石を使った多くの石倉 …………… 四八一

三 石倉の思い出 …………… 四八六

「石倉の中で助かった父」／石倉をたずねて 広報るべしべより

四 記録の中に登場する留辺蘂軟石 …………… 四九二

五 留辺蘂軟石の石蔵保存の動き …………… 四九三

六 北海道の軟石文化 …………… 四九三

第七章 観光 …………… 四九六

第一節 温泉観光の夜明け …………… 四九六

一 温根湯温泉事始め …………… 四九六

温根湯温泉の開祖 国澤喜右衛門と大江与四蔵／温泉地の形成／ポン湯温泉（北見温泉）／塩別温泉（つるつる温泉）／シケレベツ温泉

二 北見と常呂の観光はじめ …………… 四九九

若松温泉／河西ぼたん園／阿寒の表玄関に位置づけ（阿寒国立公園の指定）／サロマ湖の景勝（ワッカ原生花園）

第二節 景勝・温泉観光の隆盛 …………… 五〇一

一 道東観光の中継地―温根湯温泉 …………… 五〇一

温根湯温泉観光協会と温泉まつり／根々山スキー場／大雪国道開通と温根湯温泉の飛躍（大雪横断と石北峠）／周遊観光の中継地としての温根湯／特急おほとりの停車／石北峠の賑わい／エゾムラサキツツジ群落の文化財指定／その他の温泉の状況

二 サロマ湖道立公園指定から網走国定公園指定へ …………… 五〇六

常呂町観光協会と網走国定公園指定／サロマ湖周辺の観光開発推進

三 広域観光拠点中継地の北見市―阿寒国立公園の玄関口 …………… 五二〇

北見観光協会と広域観光拠点／北見菊まつりの創設

四 端野―オホーツクの森 …………… 五二三

オホーツクの森／温泉

第三節 団体観光から個人旅行へ …………… 五二三

一 温泉観光にかげり …………… 五二三

つつじまつりとつつじ公園（都市公園）整備／山の水族館・郷土館の建設／自作そり大滑降競技大会の開催

二 観光資源開発の取り組み …………… 五二六

町営かき島荘からサロマ湖観光ホテルへ／常呂森林公園と海水浴場／端野のリゾート開発／臨森林型グリーンクアパーク計画／ドライブイン観光／都市型観光の模索（北見）／北見ファミリーランド／東洋一の花園「フラワーパラダイス」

第四節 観光産業振興の動き……………五二二

- 一 観光拠点づくり……………五二二
 - 道の駅おんねゆ温泉／温根湯温泉街の衰退と河川改修／温根湯温泉街再生整備計画事業／リニューアル山の水族館（北の大地の水族館）／ワツカネイチャーセンター建設と「ところ遺跡の森」の整備……………五二二

二 新北見型観光推進プロジェクト……………五二八

- 北見の都市型観光（合併前の状況）／香りゃんせ公園とフェスティバル／新北見型観光推進プロジェクト……………五二八

第八編 社会

第一章 社会福祉……………五三一

第一節 社会保障制度の変遷……………五三一

- 救済事業／戦前戦中の公的扶助／戦後の社会福祉制度／欠食児童への給食／留守家族の援護／引揚者援護／公的扶助と方面委員／民生委員……………五三一

第二節 生活保護……………五三六

- 戦後の生活保護／保護の原因、受給状況……………五三六

第三節 児童福祉……………五三七

- 一 児童福祉とその対策……………五三七
 - 児童福祉と民生委員／主な公的扶助……………五三七
- 二 児童福祉事業とその施設……………五三七
 - 保育／戦前の託児所／保育所／青少年／児童を取り巻く状況／児童相談所／青少年問題協議会／主任児童委員／青少年相談センター／家庭児童相談室……………五三七

第四節 母子福祉……………五四四

- 母子（父子）家庭の状況／端野町の母子（父子）家庭に対する福祉事業／母と子の家／留辺薬町立母子健康センター／各……………五四四

団体

第五節 高齢者福祉……………五四六

- 一 高齢化社会への取り組み……………五四六
 - 老人福祉法の制定／少子高齢化社会に対応した社会保障制度の構造改革／高齢者の現状……………五四六

二 高齢者福祉事業・施設……………五四七

- 端野／常呂町立特別養護老人ホームのぞみの園／留辺薬町立養護老人ホーム静楽園／特別養護老人ホーム光の苑／北見老人ホーム／北寿園／ゴールドプラン／デイサービスセンター／寝たきり老人短期保護事業（ショートステイ）／家庭奉仕員（ホームヘルパー）派遣事業／老人福祉相談員／高齢者保健／高齢者クラブ／敬老会／高齢者クラブ一覽／高齢者福祉施設／介護保険関連施設……………五四七

第六節 障がい者福祉……………五五九

- 身体障害者福祉法／身体障害者の現状／身体障害者福祉協会／重度心身障害者医療費助成／手をつなぐ親の会／北海道身体障害者福祉協会網走支庁支部常呂分会／身体障害者福祉協会留辺薬町分会／社会福祉法人「北陽会」／精神薄弱者更生施設「るべしべ更生園」／精神薄弱者通勤寮「さつき寮」・「清和寮」／「北見」／北見身体障害者福祉協会／北見市精神薄弱児者育成会（手をつなぐ育成会）／めぐみ会の知的障がい者（児）施設／子ども総合支援センター「きらり」／北見肢体不自由父母の会／北見ろうあ福祉協会／北見市中心身障害者（児）団体連合会……………五五九

第七節 共同募金会・社会福祉協議会のあゆみ……………五七四

- 一 共同募金会……………五七四
 - 赤い羽根サポーター／女子カーリングチームヘロコ・ソラーレ／女子カーリングチーム「北海道銀行フォルティウス」／北海道日本ハムファイターズ／北海道コンサドーレ札幌／エスポラーダ北海道／レバンガ北海道／漫画家……………五七四

二 社会福祉協議会	五七六
社会福祉協議会の設立	

第八節 更生保護

一 北見更生保護会	五七九
財団法人北見実華道場／財団法人北見更生保護会／更生保護 法人北見更生保護会	五七九
二 北見地区保護司会	五八四
三 北見更生保護女性会	五八七
四 北見BBS会	五八八
五 北見オパール職親会	五八八
六 更生保護法人 釧路更生保護協会北見地区会	五八九
七 北見地区更生保護サポートセンター	五八九

第二章 保健・衛生・医療

第一節 保健医療のあゆみ

一 医療提供制度のあゆみ	五九一
医療基盤の整備と量的拡充の時代／公的病院の整備・充実／ 民間病院の整備・充実／一県一医大構想と医師の養成／多様 なコ・メディカル職種の登場／病床規制を中心とする医療提 供体制の見直し時代／都道府県医療計画制度の導入／将来見 通しを踏まえた医師数の抑制／医療施設の機能分化と患者の 視点に立った医療制度提供体制整備の時代／医療施設の機能 分化を推進するための制度改革／患者に対する情報提供を推 進するための制度改革／新たな医師臨床研修制度の導入／看 護職の確保と養成	五九一

第二節 医療保険制度のあゆみ

一 国民皆保険制度確立の時代	五九四
二 保険給付等の拡充の時代	五九四

国民健康保険等における七割給付の実現・高額療養費支給制
度の創設／老人医療費無料化

三 医療費の増大に対応するための給付と 負担の見直しの時代

高齡化等を背景とした医療費の増大	五九五
------------------	-----

第三節 これまでの健康づくりのあゆみ

一 成人病対策を中心とした疾病予防の時代	五九六
成人病対策／職場における健康確保対策	
二 生活習慣に着目した健康づくりの時代	五九八
「生活習慣病」概念の導入	
三 新しい知見に基づく総合的な生活習慣病予防と 職場における健康確保対策の時代	五九八
新しい知見に基づく健康づくり対策の展開／職場における新 たな健康確保対策	

第四節 北見の医療のあゆみ

一 医療の始まり	五九九
常呂／軍医・村医の配置	五九九
二 医療機関の台頭	六〇一
公設の医療機関／個人開業統出／事業所内医療機関／医療施 設の変遷／オホーツクの中核医療施設／北見赤十字病院／北 海道立北見病院／歯科医／歯科医師一覽／助産／旭川衛戍病 院武華村転地療養所／薬剤師	六〇一
三 北見地方の医師組織	六二六
北見医師会	六二六
四 救急医療	六二七
五 看護師養成	六三〇
看護婦養成所／日本赤十字北海道看護大学	六三〇
第五節 公衆衛生	六三〇
一 衛生組合の設立	六三〇

二 疾病・伝染病の蔓延	六三二
疾病・伝染病／隔離病舎の設置／北見市ほか三町伝染病隔離病舎の設置	

三 予防衛生	六三四
結核予防対策	

四 保健衛生事業	六三六
保健衛生事業の拠点／北見保健所／健康保健施設／公衆衛生事業の担い手	

五 近年の保健衛生事業	六三八
成人病対策・がん検診／母子保健／医療費助成／訪問看護ステーション	

第三章 通信・電気

第一節 郵便	六四一
--------	-----

一 郵便制度のはじまり	六四一
-------------	-----

二 郵便を取り継いだ駅通	六四一
--------------	-----

三 常呂・野付牛郵便局の開設から地域へ拡大	六四二
常呂郵便局／野付牛郵便局／地域の郵便局の変遷	

四 郵便輸送の変遷	六四三
-----------	-----

五 郵便事業の隆盛	六四四
-----------	-----

六 北見郵便局の事業状況	六四四
--------------	-----

七 郵政の民営化	六四七
----------	-----

八 郵便料金の移り変わり	六四七
--------------	-----

九 宅配サービスの登場	六四七
-------------	-----

第二節 電気	六四八
--------	-----

一 初めての電灯	六四八
----------	-----

北海道最初の電灯／水力発電所の建設

二 北見の電気事業	六四九
-----------	-----

電気事業会社の創立／北見電気株式会社の設立／発電所建設から点灯へ／北見電気株式会社の事業展開／常呂電気株式会社の創立

三 小規模電気事業の吸収合併	六五一
----------------	-----

北見電気株式会社が北海道電気株式会社に／常呂電気株式会社が北海道合同電気株式会社に

四 電気事業の統合と電灯等の普及	六五一
------------------	-----

合併から大統合へ／北見地域の普及／電力の統制

五 戦後の電気事業	六五五
-----------	-----

電力不足／北海道電力株式会社の誕生

六 無電灯地域の解消	六五五
------------	-----

混迷（困窮）からの挑戦／北見市／留辺蘂町／常呂村（町）／端野村（町）／相内村

七 電化社会へ	六五九
---------	-----

電気料金／家庭電化のはじまり／街並の電化／北見地方の電力経路

八 電力エネルギー源の変化	六六一
---------------	-----

石油危機と北海道電力（株）／原子力発電（原発）へ傾注／泊原子力発電所の稼動／北電の電気料金値上げと値下げ

九 新エネルギーの登場	六六一
-------------	-----

太陽光からの展開／北見市のソーラー事業のはじまり／北見市の事業展開

一〇 福島第一原子力発電所の事故	六六五
------------------	-----

爆発事故発生と避難／原発の停止／原発事故の検証／節電と電気料金引き上げ

一一 未来への灯り	六六七
-----------	-----

第三節 電信・電話	六六八
-----------	-----

一 魔法の電信	六六八
---------	-----

はじまり／北海道へ延伸／網走方面へ

二 電話の登場	六六九	四 集積回路(電卓)の出現	六九一
声が電線を走る／道内のさきがけ／野付牛最初の電話		五 パソコンの出現	六九二
三 電信・電話の発達拡大	六七〇	六 市町村のパソコン普及	六九二
電信(電報)／電話		普及のはじまり／パソコン教室／市町村窓口パソコン	
四 無線通信	六七一	七 インターネットと携帯電話	六九四
はじまり／無線の発達／戦後復興の柱／農協無線・漁業無線		インターネットの普及／イントラネット／情報機器としての 携帯電話	
五 北見電気通信部の設置	六七二	八 情報化社会の形成と問題点	六九五
六 日本電信電話公社の誕生	六七二	第一章 交通・運輸	六九七
七 地域の電話の普及	六七三	第一節 変遷	六九七
普及のはじまり／郊外地域の普及		定期航路の始まり／陸路の始まりと道路開削／道路の開削 駅通の設置／鉄道・バス路線の開通／バス・トラックの戦時 統合・分割／道路の整備／自家用自動車の増加／トラック輸 送の好転／鉄道貨物／バス需要／マイカー時代の対応／国鉄 の赤字・廃線・分割／宅配便の進出・都市間交通・道路環境 の整備／地域交通の安全と確保／地域交通環境の変化	
八 通信技術の発展	六七四	二 国道	七〇四
ダイヤル式自動電話の普及／通信サービスの進化		国道四路線／国道三九号／石北峠／電線類地中化／道の駅 北見道路／国道三三八号／国道二四二号／国道三三三号	
九 通信の自由化	六七五	三 高規格幹線道路	七〇七
電電公社の民営化と新会社の登場／携帯電話の普及		北見西―小利別間開通／地域高規格道路／期成会	
第四節 新聞・放送	六七六	四 道道	七〇八
一 新聞	六七六	一五路線／主要道道／一般道道	
道内の新聞草創期／北見地域の地元新聞等のはじまり／新聞 統制／占領下の言論統制／自由を取り戻した地元新聞等／地 元新聞で注目される人物		五 市道	七二〇
二 ラジオ放送	六八四	北見・留辺蘂自治区に都市計画道路七〇路線／市道の改良／ 都市計画道路等の整備／北見自治区の都市計画道路／留辺蘂	
はじまり／北見地方のはじまり／戦時の普及／戦後の普及／ 有線放送ラジオ共同聴取施設／有線放送電話			
三 テレビ放送	六八八		
はじまり／テレビの普及／テレビの進化			
第五節 情報化社会	六九〇		
一 情報化の源泉	六九〇		
二 電子計算機(コンピュータ)の出現	六九〇		
三 北見地方の電子計算機	六九〇		
導入のはじまり／市役所 町役場の導入と活用			

自治区の都市計画道路／自治区別の市道整備状況

六 渡船・橋梁……………七二五

渡船／橋梁／橋梁の長寿命化／国道の主な橋梁／道道の主な
橋梁・トンネル／市道の主な橋梁／農免道路

七 道路管理……………七二八

冬道対策／現在の除雪体制

第三節 鉄道……………七一九

一 鉄路の開通……………七一九

駅開業

二 石北本線……………七二〇

路線と運行便／立体交差事業／駅舎の改築と駅の開業／合理
化・単独維持困難路線／乗降客数／貨物の合理化とタマネギ
列車／慰霊・追悼・事故

三 廃止された路線……………七二四

湧網線／池北線・ふるさと銀河線

第四節 バス……………七二七

一 概況……………七二七

民間二社と市営

二 北見バス株式会社……………七二七

路線拡充／バス事業を見通し経営多角化／運賃

三 北海道北見バス株式会社……………七二八

バス事業に絞る／地元資本へ／路線の新設・廃止／営業活動
／協定・認定／新会社の運賃／現況

四 都市間バス……………七三〇

ドリーミントオホーツク号など運行

五 市営バス……………七三一

民間バス廃止に伴う常呂町営

六 バスターミナル……………七三一

常呂の施設改築

第五節 自動車運送……………七三一

一 トラック運送……………七三一

二 北見地区トラック協会……………七三一

三 タクシー等……………七三三

レンタカー・運転代行

第六節 自家用車の普及……………七三四

一 乗用車と軽自動車の増加……………七三四

乗用車五万、軽自動車三万台に／「北見」・ご当地ナンバー

二 車社会を支える……………七三五

自動車販売店／北見地方自動車整備振興会／ガソリンスタン
ド／自動車学校／北見地区自家用自動車協会／軽自動車検査
協会北見事務所

第七節 航空輸送……………七三七

一 女満別空港……………七三七

年間乗降客一〇〇万人突破

二 女満別空港ターミナルビル……………七三八

増改築により機能充実

三 農道離着陸場（農道空港）……………七三八

農道離着陸場整備事業の目的／農道離着陸場整備事業実施の
経緯／北見市の取り組み

第八節 北見市の交通施策……………七三九

一 交通バリアフリー基本構想……………七三九

重点整備地区に中心市街地

二 都市交通マスタープラン……………七四〇

交通施策の指針

三 地域公共交通の確保……………七四〇

地域公共交通会議／地域公共交通計画／コミュニティバスの

新設／スクールバスの住民利用／赤字バス路線対策

第九節 交通・運輸関係行政……………七四二

国土交通省北海道運輸局北見運輸支局／国土交通省北海道開発局網走開発建設部北見道路事務所／北海道才ホーツク総合振興局網走建設管理部北見出張所

第五章 防災と治安……………七四四

第一節 災害……………七四四

一 常呂川の水害……………七四四

明治三十一年の大洪水／明治三十四年の洪水／明治三十七年の洪水／明治四十二年の洪水／明治四十三年の洪水／明治四十四年の洪水／明治四十五年の洪水／大正二年の洪水／大正四年の洪水／大正五年の洪水／大正八年の大洪水／大正九年の洪水／大正十一年の大洪水／大正十二年の洪水／昭和五年の洪水／昭和七年の洪水／昭和十年の洪水／昭和十四年の洪水／昭和十六年の洪水／昭和二十二年の洪水／昭和二十三年の洪水／昭和二十八年の洪水／昭和二十九年の洪水／昭和三十年の洪水／昭和三十一年の洪水／昭和三十二年の洪水／昭和三十三年の洪水／昭和三十五年の洪水／昭和三十六年の洪水／昭和三十七年の洪水／昭和三十九年の洪水／昭和四十年の洪水／昭和四十一年の洪水／昭和五十年の洪水／昭和五十三年の水害／昭和五十四年の洪水／昭和五十六年の洪水／昭和六十三年の洪水(都市型水害)／平成元年の洪水／平成四年の洪水／平成六年の内水洪水／平成十年の洪水／平成十三年の洪水／平成十四年の洪水／平成十五年の洪水／平成十八年の洪水／平成二十六年の洪水／平成二十七年の暴風雨／平成二十八年の大洪水

二 常呂川の河道の変遷……………七五五

三 その他の災害……………七五八

地震、津波、地すべり(がけ崩れ)／雪害、風害／冷害、旱

魃、雹害、霜害

四 防災……………七六二

治水対策／防災対策と組織等／防災施設及び設備災害被災への支援

第二節 警察……………七六七

一 北海道内の警察のはじまり……………七六七

二 北見地域の警察設置……………七六八

三 警察署・駐在所の設置……………七六八

網走警察署の管轄／野付牛警察署／北見警察署

四 警察活動……………七七〇

五 治安警察(特別高等警察)……………七七〇

治安警察法の制定／弾圧時代のはじまり／治安維持法の制定

六 戦後の警察……………七七二

警察制度の改革／北海道警察／北見地方の警察体制／新たな警察活動

七 北見地域で注目の事件と事故……………七七五

戦前の状況／戦後混乱期に大事件・大事故／現代的事件・事故

第三節 裁判所及びその他組織……………七七七

裁判所／防犯協会の設立／交通安全協会

第四節 消防……………七八二

一 消防組織の創設と沿革……………七八二

消防組の位置付け／私設消防組の誕生から公設消防組へ／常備部(野付牛消防組)の設置／火災予防組合／防護団の発足から警防団へ

二 近代消防へ……………七八六

敗戦から消防改革までの警防団／戦後の改革と変容／自治体

消防の確立	七九〇
三 消防機構の強化	七九〇
広域の消防組合設立／網走地区消防組合の発足／常呂分署及び消防団（合併まで）／北見地区消防組合の発足／北見消防署及び消防団（合併まで）／端野支署及び消防団（合併まで）	七九六
四 新北見地区消防組合の誕生	七九六
合併の前後／北見地区消防組合議会／消防団員及び職員の実況／特筆する活動／消防自動車等の状況／消防庁舎の建設	七九九
五 主な火災の記録	七九九
第六章 環境	八〇〇
第一節 環境施策の推進	八〇〇
一 環境問題と法整備	八〇〇
二 北見の環境対策	八〇〇
常呂川汚濁防止対策漁民大会	八〇一
第二節 廃棄物処理	八〇一
一 ごみ	八〇一
ごみの出現／ごみ処理／廃棄物処理法制定	八〇二
二 北見のごみ処理	八〇二
ごみ収集体制／ごみ捨て場／ごみの収集／廃棄物の処理／産業廃棄物の有料化／清掃事業所の移転／事業系ごみの有料化と民間委託化／北見市廃棄物減量等推進審議会の設置／家庭系ごみの有料化／ごみの分別収集の開始／新廃棄物処理場稼働に向けた新分別収集／新廃棄物処理場稼働／クリーンライフセンター／廃棄物対策課啓発担当の新設／ごみの減量化・再資源化の取り組み／ごみの減量化／北見市廃棄物減量等推進制度の設置／ごみの再資源化／産業廃棄物／端野のごみ処理／ごみ捨て場の指定／町営ごみ捨て場の設置／忠志一般廃棄物処理場の設置／ごみ収集業務／ごみの再生資源化と将来計画	八〇二
三 ごみ処理施設	八〇八
北見自治区の処理施設／常呂自治区の処理施設／留辺蘂自治区の処理施設／端野町廃棄物処理場	八〇九
四 廃棄物処理の課題と対応	八〇九
農業用廃プラスチック類の広域的な処理／北見地区農業振興連絡協議会地域振興部に専門部会／一般廃棄物の広域的な処理／「広域ごみ処理協議会」の設置／家庭系ごみの広域的な処理／合併後の家庭系ごみの分別と収集運搬体制／不法投棄	八二〇
五 生活排水処理	八二〇
し尿収集／下水道終末処理場／北見地区衛生施設組合／スクラムミックス事業／常呂	八二一
六 生活排水処理施設	八二一
七 北見市一般廃棄物処理基本計画	八二二
ごみ処理計画／廃棄物減量等推進員の委嘱／生活排水処理基本計画／基本方針／具体的な施策／ごみ分別の変遷	八二七
第三節 生活環境	八二七
一 公営住宅と公衆浴場	八二七
公営住宅の建設／公営住宅の課題／公営住宅のふろりース／公営住宅トイレの水洗化	八二八
二 公衆浴場・銭湯	八二八
入浴料金（抜粋）／集客に向けた銭湯の取り組み	八三三
三 共同墓地	八三三
常呂の墓地・火葬場／端野の墓地・火葬場／留辺蘂の墓地・火葬場／北見の墓地・火葬場／北見市の霊園・墓地	八二七
第七章 生活	八二七
第一節 人々のくらし	八二七
一 遺跡にみる生活	八二七
二 アイヌの生活	八二八

三 開拓期の生活	八二八	五 農耕馬	八六六
衣／食／住／物資の入手と常呂の高い物価／公共施設／楽しみ		当地最初の農耕馬／賃耕／馬用農機具／農耕馬の能力と飼育／馬を操る言葉／農産物出荷の駄馬	
四 大正から昭和前期	八三〇	六 馬車（櫛）による運送業	八六九
衣／食／住／子どもの遊び		小運搬業 軌道馬車	
五 戦時下、戦後のくらし	八三二	七 馬喰（家畜商）	八七〇
衣／食／住／減私奉公・総動員体制／援農・竹槍訓練		北見地方家畜商業協同組合の創立	
六 経済成長期	八三三	八 軍馬の生産	八七〇
衣／食／住		屯田兵と馬／馬の統制／満州馬	
七 昭和から平成のくらし	八三五	九 馬匹（数）の推移	八七二
衣／食／住		馬の頭数／戦後の隆盛と衰退／農協による農耕馬改良／激減する馬／家畜衛生	
第二節 宗教	八三六	一〇 馬頭観音（馬頭祭）	八七四
はじめに／信仰の変遷／古代の人々の祈り／アイヌの信仰／弁天社／開拓のころ／説教所／屯田神社の創立／宗教移民団／キリスト教移民／その他の宗教／各宗教の進展／神社仏閣の文化財／信善光寺屯田兵人形（七五体）／寺院境内の保存樹木等／北見市内の宗教施設／神道系／神社神道系／教派神道系／仏教と仏教系の諸教団／仏教寺院／仏教系諸教団／キリスト教とキリスト教系の諸教団／諸教／宗教法入教団		一一 馬の風物詩	八七五
第三節 馬の文化（北見地域）	八三八	一二 ばんば競走（輓曳競馬）	八七六
一 馬の登場	八三八	北見地域の競馬のはじまり／常呂／野付牛（北見）／公認の競馬／北見競馬場／野付牛のばんば（輓馬）競走／ばんば競争の起源／野付牛最初の記録／ばんば（輓馬）競走の登場／道営競馬／馬櫛によるばんば競走のはじまり／地域のばんば（輓馬）競走／北見市営競馬の開催／新競馬場の建設／運営の充実／北海道市営競馬協議会／北見市営競馬の終焉／衰退の兆候／これまでの記録／最終年の状況／北海道市営競馬組合／おわりに	
二 駄馬による輸送	八三八		
馬の飼育と活躍のはじまり／北見道路と馬／駄馬による運送業の登場／運搬業組合			
三 馬車（馬櫛）と馬具	八六〇		
開拓地に登場／馬具など／当地初登場の馬櫛／玉櫛、バチ／荷馬車／ほどう車／馬関連を業とした者			
四 馬の改良	八六四	第八章 住民活動	八八四
種牡馬と牧場／ドサンコの衰退／網走外三郡産牛馬組合／優良馬産地の常呂／野付牛の馬産／馬事衛生／馬産振興の施策		第一節 コミュニティ	八八四
		一 コミュニティの概念	八八四

二 集落の変遷……………	八八四	第一節 開拓・発展を支えた女性……………	九一一
明治以前／明治以降……………		一 開拓期……………	九一一
三 昭和期～戦前・戦中……………	八八八	開墾作業と家事／結婚と女性労働力……………	
町内会・部落会……………		二 日露戦争時……………	九二二
昭和期～戦後……………	八八九	銃後の守りと女性／戦争を援護する婦人の団体……………	
駐在員・区長・総代……………		第二節 ピアソン夫人の廃娼運動……………	九二三
五 新しい住民組織……………	八九〇	一 野付牛の賑わいと料理屋……………	九二三
六 新北見市……………	八九二	新市街地と旧市街地／料理屋と私娼……………	
新しい自治会組織／北見市住民自治推進交付金制度／町内会……………		二 ピアソン夫人の遊郭設置阻止運動……………	九二四
をめぐる課題／これからのコミュニティの在り方……………		遊郭設置運動の動き／矯風会野付牛支部／運動の功績……………	
第二節 市民活動……………	八九五	三 遊郭設置運動の顛末……………	九二六
一 市民活動とは……………	八九五	遊郭設置運動のはじまり／遊郭予定地／二つの市街地……………	
二 市民活動の変遷……………	八九五	四 遊郭設置反対運動のその後……………	九二七
市民活動の始まり／女性の活動／新生活運動／市民活動の広がり／現在の市民活動／活動を支える制度／市民活動の意義……………		第三節 大正から昭和……………	九二八
第三節 消費者協会とその運動……………	九〇一	一 女子教育……………	九二八
一 消費者政策の歴史……………	九〇一	教育機関の開設／青年学校女子部……………	
消費者政策／消費者による運動／野付牛の消費組合／北見市の消費者行政……………		二 女性の就労……………	九一九
二 北見消費者協会設立に向けて……………	九〇三	戦時下の女性労働……………	九一九
三 北見消費者協会の設立……………	九〇四	女子勤労挺身隊令・女子勤労奉仕隊／国鉄北見駅……………	
設立時／協会の活動のスタート／協会の業務の拡大／協会からの発信／新しい体制作り五部体制へ／消費者を取り巻くあらゆる課題……………		四 医療と女性……………	九二〇
四 創立三十年～四十年……………	九〇七	女性医師／看護婦／産婆／産婆組合……………	
各部の取り組み／大豆トラスト運動／創立四十周年……………		五 婦人団体……………	九二二
五 新たな協会の体制……………	九一〇	戦前戦中の婦人団体／処女会……………	
第九章 北見の女性……………	九一一	第四節 戦後の女性……………	九二三
		一 女性の社会進出……………	九二三
		女性参政権／女性管理職の登場／自動車の普及と女性の働く場……………	

二 婦人団体	九一四	二 婦人団体	九三六
婦人会の結成／農・漁協婦人部／婦人活動団体／婦人団体の改組・改称／婦人大会の創設		一 新市の将来像	九三六
三 婦人団体の動向	九一六	二 六つの基本目標と施策	九三七
婦人団体連絡協議会（婦連協）の解散／新たな活動／常呂漁協婦人部		第四節 北見市まちづくり基本条例	九三七
四 助産所と助産婦	九一七	一 北見市まちづくり基本条例	九三七
助産所		第五節 事務事業の調整項目	九四一
五 女性の学び	九一七	一 合併時調整項目	九四一
学校・各種学校／社会教育		二 合併後調整項目	九四一
第五節 平成の女性	九一八	三 調整継続項目	九四一
一 男女共同参画社会の実現に向けて	九一八	第二章 行政・議会	九四三
世界の動きと日本／北海道における男女平等参画の取り組み／北見市における男女共同参画の取り組み		一 歴代市長	九四三
二 ワーク・ライフ・バランスの実現	九三〇	二 歴代副市長	九四三
北見市の取り組み／働く場の変化／女性を取り巻く問題		三 収入役	九四三
三 婦人から女性へ	九三一	四 歴代常勤監査委員	九四三
		五 歴代教育長	九四四
		六 歴代公営企業管理者	九四四
		七 歴代自治区長	九四四
		八 歴代正副議長	九四四
		九 歴代議員	九四四
		第三章 自治区の取り組み	九四五
		まちづくりパワー支援補助金／住民自治推進交付金	
第九編 合併十年のあゆみ		第一節 北見自治区	九四六
第一章 合併後の北見市の沿革	九三三	一 北見まちづくり協議会	九四六
第一節 人口及び世帯数	九三三	二 まちづくりパワー支援補助金	九四六
一 人口及び世帯数の推移	九三三	第二節 端野自治区	九五〇
第二節 自治区制度	九三五	一 端野まちづくり協議会	九五〇
一 自治区制度	九三五		
二 総合支所	九三五		
三 まちづくり協議会	九三五		
四 自治区長	九三五		

二	まちづくりパワー支援補助金	九五三
第三節	常呂自治区	九五五
一	常呂まちづくり協議会	九五五
二	まちづくりパワー支援補助金	九六五
第四節	留辺蘂自治区	九六七
一	留辺蘂まちづくり協議会	九六七
二	まちづくりパワー支援補助金	九七八
第四章	十年のあゆみ	九八〇
第一節	開市・開庁	九八〇
第二節	合併記念式典	九八〇
第三節	合併一周年	九八二
第四節	都市宣言	九八二
一	技能振興都市宣言	九八二
二	ワツカ自然環境保全宣言	九八三
三	核兵器廃絶平和都市宣言	九八三
四	農林漁業をはぐくむ宣言	九八三
五	犯罪及び交通事故のない安全なまちづくり宣言	九八三
第五節	合併十周年	九八四
第六節	主な事業	九八五
第七節	十年のあゆみ	九九二

凡例

- 一 本史は、刊行済みの『北見市史』『新端野町史』『常呂町百年史』『新留辺蘂町史』を基本に新たな事象を加え編集をした。
- 二 本史は『新北見市史』『上巻』『下巻』『年表編』『資料編』全四巻のうち「下巻」である。
- 三 年代表示は、原則として元号（和暦）を用い、必要に応じて西暦を（ ）内に入れて示した。
- 四 数字の表記は、一〇、一一、一二、一三・・・とした。（和暦の年月日の表記を除く）
- 五 史書の例にならって人名はすべて敬称を略した。
- 六 記述は努めて平易なものとし、「である」の口語体を用い、学術用語等を除いて極力、常用漢字・現代仮名遣いを使用し、必要に応じてふりがなを付した。
- 七 資料等の引用にあたっては、原則として別行・字下げとした。文中においては引用文に「」を付し明示した。
- 八 参考・引用文献は各編の各章の執筆分担者ごとにまとめ、『』または「」を付して出典を示し、文末に掲載した。なお、一部については、本文中に掲載したものもある。
- 九 編集にあたっては正確を期するよう努めたが、新たな史料等の発見に至らず、判明することができなかった事象については併記をした。なお、今後の調査と研究を要することも少なくない。
- 一〇 本史執筆にあたっては、担当分野の執筆者の意向を尊重し、原則として表現や表記等については統一を図るよう務めたが、その限りではない。執筆分担者を次に示す。

『新北見市史』下巻 執筆担当者一覧

第六編	第一章	齊藤 幸喜（市史編さん主幹）
第七編	第二章	堀 仁志（専門委員）
		市川 安明（協力員）
		齊藤 幸喜（市史編さん主幹）
		山田 眞司（協力員）
		福澤 明（編集委員長）
		齊藤 幸喜（市史編さん主幹）
		若杉 鉄夫（編集委員）
第八編	第三章	齊藤 幸喜（市史編さん主幹）
	第四章	石井 健一（副編集委員長）
	第五章	浅井 敏（協力員）
		海野 勲（編集委員）
		石井 健一（副編集委員長）
		齊藤 幸喜（市史編さん主幹）
		夏井留美子（編集委員）
		石井 健一（副編集委員長）
		夏井留美子（編集委員）
		夏井留美子（編集委員）
第九編	第三章	齊藤 幸喜（市史編さん主幹）